ライフセービング・パトロール・コンペティション２０１７

(パイロット大会)

実施概要

わが国のライフセービング活動は、1980 年前半にオーストラリアのライフセービング・メソッドが紹介されたことでその基礎が作られました。そして、救助方法や救助機材とともに体力向上のための競技会も導入され、今日まで、盛んにおこなわれてきています。これにより、ライフセーバーのフィジカル面は向上が図られました。しかし、救助スキルについては、ライフセービング先進国のそれと比べるとまだまだ不十分といわざるを得ません。

監視・救助のスキルアップのためには、様々な対策が講じられる必要がありますが、その一つとして、オーストラリアでは、泳力やボードの速さを競うフィジカル競技の他に救助や心肺蘇生を的確に出来るかを競う「パトロール・コンペティション」が実施されています。この競技大会は、競い合うことでスキルの向上を図るだけでなく、社会に対してライフセーバーの活動内容や技量を広報する良い機会にもなっています。

そこで、このパトロール・コンペティションをわが国にも導入して、現場のライフセーバーのスキルアップを図り、さらに社会に対してライフセービング活動に対する認知度向上につなげる機会にしようとするものです。

今大会は、競技規則や運営方法の的確さを検証することを目的にパイロット大会として開催するものです。

主催：ライフセービング・パトロール・コンペティション実行委員会

後援：NPO 法人日本ライフセービング協会（JLA）、オーストラリア・サーフライフセービング協会（SLSA）

助成：オーストラリア連邦政府・豪日交流基金

協賛：株式会社サンギ

日程：平成 29 年 10 月 22 日 (日)

会場：岩井海岸（千葉県南房総市）

競技：SLSA 競技マニュアルで「パトロール・コンペティション」として規定された以下の 5 種目を実施。競技は、SLSA 競技マニュアルをベースに編集した「ライフセービング・パトロール・コンペティション競技規則 【2017 年版】」に基づく。

1 チームの選手数は 6 名。男女構成は自由。
競技に出場する選手は、当日抽選にて決定。

分野	競技名	チームからの出場選手数	得点（満点）
体力的スキル分野	①サーフチームレース	6 名	10 点
	②ボード・チューブレスキューリレー	3 名	10 点
理論分野	③学科試験	6 名	20 点
BLS 分野	④BLS アセスメント	4 名	20 点
シナリオ分野	⑤救助シミュレーション	6 名	40 点

参加費：無料（パイロット大会のため）。交通費、宿泊費等、参加のために必要な経費は自己負担

チーム数：6 チーム（パイロット大会のため限定）。また、オーストラリアからの招待選手が 1 チーム参加。

表彰：順位付けはせず、4 種目の合計得点に応じて賞を授与。（最高得点は 100 点）
80 点以上で「ゴールドメダル」
70 点以上で「シルバーメダル」
60 点以上で「ブロンズメダル」

応募条件：　【チームについて】
・チームは、JLA の団体正会員、若しくは団体一般会員として登録され、JLA に登録されている団体名で出場しなければならない。また、1 団体からの出場は 1 チームとする。
・チームは、同じクラブに所属する選手により構成されていなければならない。
・大会開催の改善点等について意見をする等の協力が可能で、事後も継続的に大会に対し協力が可能なこと。

【選手について】
・年齢 18 歳以上（大会初日において）
・ベーシックサーフライフセーバー以上の資格を取得している
・1 シーズン以上の海岸でのパトロール経験（日数は問わない）

ライフセービング・パトロール・コンペティション実行委員会

Ron Rankin（大会名誉顧問）

深作 友明、久松 晶子、小林 雅彦、深山 元良、高橋啓一、田勢 美貴（姓名の abc 順）